



Q コロナ禍での1年間で 見えてきたことは

かないずみ ふ き こ
金泉婦貴子 議員



A ピンチをチャンスに変え、新しい 時代へと市政を進めていく

問 行財政について。

答 令和3年度予算は、中長期的な視点から既存の計画の見直しや公共事業等の精査を行った。感染症の影響を受けて暮らしに悩みを抱える市民や事業の継続に不安を持つ事業者等に寄り添い、相談体制の充実等に取り組みでいく。

問 経済対策について。

答 国や県が行う広範な事業者の救い上げをサポートしながら、その網から漏れる事業者への救済や、地域での循環に特化した独自の経済施策を検討していく。

問 教育現場について。

答 学校の臨時休業は、児童・生徒の学習と生活に大きな影響を及ぼした。各学校はアンケータや面談等を実施し、スクール

カウンセラーや相談員と連携を図り、児童・生徒が安心して生活できるよう努めている。

問 子ども、子育て世代について。

答 児童館やつどいの広場など、遊び場や居場所の確保は非常に大事であると捉え、各施設において感染防止対策を徹底し、対応している。また、コロナ禍でも相談の機会が減少することがないよう配慮し、児童虐待の通告があった際は、子どもの安全確認を徹底している。

Q 将来人口と重点戦略 について

おおそねひであき
大曾根英明 議員



A 重点戦略をバランスよく進めて 地域の活力維持につなげていく

問 東京などから「適度な距離の地方」との考え方について。

答 新型コロナウイルス感染拡大防止のため在宅勤務等が広がり、東京への一極集中から地方への一定の流れが見られるものと認識している。都心から45キロ圏内にある本市の交通アクセスの良さや住環境等を一体的に

PRし、移住・定住の促進や企業誘致等につなげていきたい。

問 第6次鶴ヶ島市総合計画の重点戦略1から3についての見通しと今後の展開について。

答 重点戦略1の子どもにやさしいまちづくりでは、待機児童数ゼロの継続、教育環境や相談体制の充実等を進める。また、

子どもたちが将来帰ってきたいと思えるまちを目指す。

重点戦略2のいつまでも健康でいられるまちづくりでは、高齢化等による地域活力の低下を防ぎ、健康づくりを推進するための取組を進めていく。

重点戦略3の多様な働き方が実現できるまちづくりでは、都市計画道路の整備と併せて企業誘致を進め、雇用促進を図る。重点戦略に掲げる取組をバランスよく進めることで、若い世代の転入や定住の促進、地域の活力維持につなげていきたいと考えている。



第6次鶴ヶ島市総合計画